

市民が選ぶ市民活動支援制度が始まりました

一宮市では現在、581団体・3万4000人を超える方が、市民活動支援センターや社会福祉協議会に登録し、市民活動に参加しています。活動の分野は福祉・環境・教育・文化・スポーツ・まちづくりなど多方面にわたり、地域の活性化にかかせない重要な存在となりました。市も第6次一宮市総合計画の基本理念に「協働」を掲げ、市民活動の支援に積極的に取り組んでいます。

市民活動に限らず、「活性化する」とはどういうことなのでしょう。それは、「多くの人々の知るところとなり、関心を引き、社会全体を巻き込んでいくこと」だと思います。年金や税金など、もともと関心が高いテーマであればほど苦勞はしませんが、市民活動というあまりなじみのないテーマでは、社会全体を巻き込んでいくことは極めて困難です。

そこで考えたのが、「市民が選ぶ市民活動支援制度」です。もともとはハンガリーで始まった制度で、日本では千葉県市川市で初めて導入されました。それらを参考に一宮方式の制度を考えたのですが、「市民が選ぶ、しかもその1票にはお金が付いてくる」というのが最大の特徴です。市民の皆様は自分が応援したい団体を選び、しかもその結果で団体にお金が回ります。多くの方が深く関与することができ、社会全体を巻き込むことにつながるのではない

かと期待しています。

投票は、1月から2月にかけて行われました。郵送・窓口・ファクシミリ・インターネット・出張受け付けの5つの方法を用意し、投票者数は最終的に3万1000人を超え、投票率は約10%でした。

個々の状況を見ますと、希望どおりの額が集まった団体もあれば、希望額の1割にも満たない団体もありました。やはり地域性の高い団体や組織規模が大きな団体、PRに力を入れた団体がたくさん票を集めたようです。

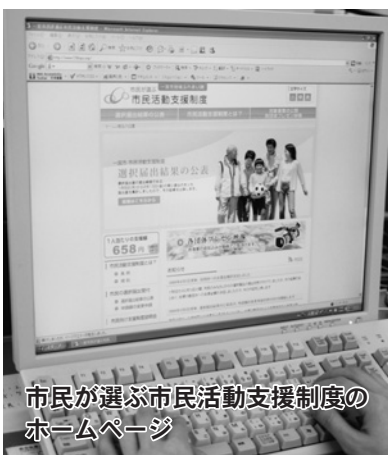
投票率は先例市の倍以上に達しましたが、どれほどの方々が、自分たちの住んでいる地域や社会のことを考えて投票していただけたのでしょうか。理想を言えば、団体のPR映像やチラシを見て投票をしていただきたいのですが、今回は初めてということもあり、団体の方々から声を掛けられて投票した方も多かったのでは、と想像しています。

いわゆる組織票が悪いというわけではありません。その団体に賛同して加入していれば、そこに投票するのは当然です。しかし、このような市民活動団体とならば接点を持たない多くの皆様、自らの考えで投票し、その結果、投票率が向上することが望ましいと考えています。そのためには制度のPRと併せて、活動団体の意義や目的を正

しく市民の皆様にご理解いただく努力が大切だと思います。

今回の取り組みを通じて、大きな動きが生まれました。それはこの制度を支え育てることを目的とした、新たなNPO(民間非営利団体)が設立されたことです。この団体は市との協働事業として、支援対象団体への意識啓発、市民への制度周知、制度を充実させるための市との意見交換会などを計画し、あいちモリコロ基金の助成を受けることになりました。

始まったばかりの制度であり即断はできませんが、明らかに何かが変わろうとしています。市民活動団体が地域の課題を自ら見つけ、地域の資源を生かしながら、その問題を解決するために自主的・自発的に活動する。その結果、地域コミュニティが再生され、あたたかく住みよいまちの実現につながるよう、制度の改良を重ねながら、支援を充実していきたいと思えます。



市民が選ぶ市民活動支援制度のホームページ